

2021年度第5回9月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2021年9月
2. 開催の場所 各委員に資料を郵送して番組をお聞きいただき、
意見・感想を返信してもらう形式で開催
3. 委員の出席 委員総数9名
返信総数9名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	河又弘子
	委員	竹内明子
	委員	白幡冬彦
	委員	古口 悟
	委員	富田哲夫
	委員	大森玲子
	委員	石松英昭
	委員	大出正志

4. 議 題

(1) はぐくみラボ

毎月第4日曜日 10:00～10:30

(2) その他

5. 議事内容

(1) はぐくみラボ

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴していただいた

議題説明：県内で社会福祉法人と学校法人を主宰する山村達夫さんがパーソナリティをつとめ、「はぐくむ」をテーマに様々な分野で活躍するゲストにお話しを聞く対談番組。女子ソフトボール元日本代表監督の宇津木妙子さんと整理収納コンサルタントの小堀愛生さんが出演された放送の回を試聴した。

各委員からは、

- ゲストの話を巧みに聞き出し、とても安定感のある進行役だった。散漫になる内容を「はぐくむ」というキーワードに着地させていた。「はぐくむ」という共通項で様々なゲストの話を引き出し、特別番組を組むのも面白いのではないか。
- 子育て情報番組かと思ったが、ゲストの仕事やスキル、考え方、生き方を聞き出す番組だった。進行役が各回ともゲストに合わせた進め方で、うまくまとめていたと思う。この人からはこの話が聞きたいと思う内容を引き出していた。30分間じっくり聴くタイプの番組であるため、現在の日曜午前の放送時間が相応しいと感じた
- 宇津木さんの話では、自らが真剣にやっている姿を選手たち見せることが必要とのことで、宇津木さんの生き方がよく判った。小堀さんの話では、親の目線で物事を決めない方がよいという言葉にハッとさせられ、子供と二人三脚で取り組む必要があると感じた。
- 進行役の要領を得た聞き出し方や話し方が良く、わかりやすく伝わった。管理職という立場で聞くと一言一言に重みがある内容だった。宇津木さんの話は、古き良き人材育成の難しさが伝わった。小堀さんの話は、頭でわかっている中々できるものではないと日々感じている自分に自答する良い機会だった。講師料を払わずに良い話を聞くことができる番組だった。
- 他分野のスペシャリストに話を聞くことは非常に有意義でためになる。早口のゲストでは、話の内容を整理しづらい。購買行動の心理学についてはもっと語ってほしい。買い物後の自己肯定感満足感や精神的爽快さを強調していたことに感心した。

- 多様なゲストで、番組が意図するようにリスナーが何かを考えられる様な機会であり続けてほしいと思わせる番組だった。成長期に良質な大人と出会えることは、その子のその後の人生に本当に影響を与えると実感できた。宇津木さんの話は、聞きごたえのある内容だった。
- 放送関係者ではない方が対談を試みる挑戦は悪くない。そのような意欲のある人を掘り起こすことも大切。一人で延々と話してしまうゲストをどのように抑えて対談にするか、間合いの取り方などサポートできる存在がいるといいと思う。番組としてはまとまりが乏しい。ターゲットが幅広いのに、オープニングが子供の声で子育て世代を対象にしているようでそぐわない。BGMを入れるなど聞きやすくする工夫の余地があると感じた。
- 結果や実績を残した人の人生の話は、重みがあり、内容が深く、聞きごたえがあった。「はぐくむ」というテーマであればゲストがいかに育まれてきたか、育んできたかという話をメインにした方が良いと思う。人が育まれる、成長するというとはどういうことか、深い部分にも思いが至るようなやり取りが聴けるとさらに良い番組なると思う。
- 人は様々な人と出会い、影響を受けながら成長していく。その人がそれぞれの出会いを前向きに受け止め、どう活かしていくか、考えさせられる番組。進行役が「はぐくむ」というテーマで、ゲストから体験などを上手に引き出し、わかりやすく提供していると感じた。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の答申および意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」
(2021年10月10日(日) 午前8時5分放送)
- ② 当社のホームページに掲載(2021年10月12日～)
- ③ 当社事務局に議事録備え置き(2021年10月10日～)

以上